

## 卒業論文の要旨

論文題目	新渡戸稲造「武士道」創出の意図
氏名	辻健太郎
メジャー	日本地域研究
<p>(要旨)</p> <p>辻健太郎「新渡戸稲造「武士道」創出の意図」(卒業論文)は、2018 年度に執筆したゼミ論文、辻健太郎「明治期における武士道-新渡戸稲造『武士道』を中心として」を発展させて、考察並びに研究を行ったものである。</p> <p>ゼミ論文執筆に当たっての動機は、執筆前に岬龍一郎[訳]/新渡戸稲造[著]『武士道』(PHP 研究所、2005 年)を目にしたことが関連する。そして新渡戸の『武士道』を読んだものの、「武士道」が意味することが何か理解が至らず、このことがゼミ論文執筆の大きな問題意識となった。</p> <p>その後、新渡戸「武士道」に関連する論文や著書を少しずつ読み進めていくようになり、新渡戸「武士道」の問題が少しずつ明瞭になっていった。一つには、新渡戸「武士道」が、新渡戸の記憶から書かれているということであり、二つは、近世期における武士の思想と全く相関性が見られないということで、この二つの理由から、新渡戸「武士道」の正当性が、各研究者によって指摘されている。</p> <p>この点は、新渡戸「武士道」を考察する研究者は大方踏まえており、今回の卒業論文では、新渡戸「武士道」が明治期に入り創出されたものだとして考察を行った。そして最終的には五人の研究者の見解を引用・吟味し、『武士道』からそうした箇所が見られるかを比較し、新渡戸「武士道」の意義を結論づけた。</p> <p>卒業論文では、ゼミ論文での考察とそこから浮上した課題について考察と研究を行っている。浮上した課題とは、新渡戸が自ら『武士道』を書こうと思った背景や意図についてである。『武士道』の中では、ド・ラヴレー教授の問い(日本では、宗教なくしてどうして道徳教育ができるのか)と妻のメリーの問い(なぜ、日本にはこういう風習があるのか)から来ていると、新渡戸自らが記しているが、卒業論文では、この問い以外にも、新渡戸が「武士道」を執筆しようと思った背景や意図があったのではないかと仮説を立て、新渡戸が『武士道』を書いた時代が「武士道」ブームの時期であり、新渡戸以外にも多くの日本論の著書が諸外国に出版された点に着目した。私は、この二つの点に着目して、新渡戸「武士道」創出の意図を考察した。そして最終的には、四人の研究者の見解を引用し、新渡戸「武士道」創出の意図を結論づけた。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>近代思想史という学生がテーマとして選択するには高度な分野を進んで選び、ゼミ論文より一貫したテーマで研究に取り組み、多くの論文や書籍を丁寧に読み込んでいる点が評価できる。そして、自己の課題を明瞭に設定し、研究史の整理を踏まえて考察し、自己の見解を導いている点が評価できる。また、今後の研究の発展性が大いに期待できるものと考え、ここに推薦したい。</p> <p style="text-align: right;">田中 暁 龍</p>	